

『貞観政要』に学ぶ

対談

上に立つ者の

谷沢永一 & 渡部昇一

関西大学名誉教授

上智大学名誉教授

# 工夫用力の心得



**渡部昇一**——わたなべしゅういち  
昭和5年山形県生まれ。30年上智大学文学部大学院修士課程修了。ドイツ・ミュンスター大学、イギリス・オックスフォード大学留学。Dr.phil. Dr.phil. h.c. 平成13年から上智大学名誉教授。幅広い評論活動を展開する。著書は専門書のほかに『歴史に学ぶリーダーシップ』『幸田露伴に学ぶ自己修養法』など多数。近著に『沢沢栄一——男の器量を磨く生き方』『時流を読む眼力』『四書五経一日一言』(いずれも致知出版社)などがある。

**谷沢永一**——たにざわえいいち  
昭和4年大阪府生まれ。32年関西大学大学院博士課程修了。関西大学文学部教授を経て、平成3年より名誉教授。文学博士。専門は日本近代文学、書誌学。社会評論でも活躍。著書に『人間通論』(新潮社)『名言の智恵 人生の智恵』(PHP研究所)『いま大人に読ませたい本』(致知出版社)など多数。共著に『聖書で人生修養』『修養こそ人生をひらく』(いずれも渡部昇一氏との共著、致知出版社)などがある。

歴史上有数の名君として数えられる唐の太宗はなぜ名君たりえたのか——。その工夫用力のすべてが書かれている本、それが『貞観政要』である。「リーダーとはどうあるべきかか最も具体的に書かれた世界で最高の本」と『貞観政要』を激賞される谷沢永一先生と渡部昇一先生に、この本の魅力、トップリーダーとしての太宗の魅力を存分に語り合っていた。

## 帝王学の書『貞観政要』

谷沢 『貞観政要』というのは、唐の太宗が諫議大夫や諫臣たちと交わした対話をまとめた本です。編纂したのは呉兢という当代一流の歴史家で史官だった人。呉兢は太宗が没して約五十年後の人です

が、宮廷の中に残っていた資料を基にまとめたわけですね。

『貞観政要』は遅くとも桓武天皇の時代には日本に入っていたようです。以来、当時の歴代天皇、あるいは北条、足利、徳川といった為政者がこの本に学んでいます。要するに『貞観政要』には、皇

帝・帝王とはどうあるべきか、政治とはどうあるべきかが記されているのです。高位にある者が政治を執り行う場合に心得るべき要諦がすべて書かれているエンサイクロペディア(百科事典)のような本です。

私も『貞観政要』という有名な

本があることはかねてから知っていました。ところが不思議なことに、この本の研究書が見当たらない。おかしいなと思って探していたところにやっと古書目録で見つけたのが原田種成の『貞観政要の研究』(昭和四十年・吉川弘文館)という本。これを読んでビックリ